

介護プロフェッショナルキャリア段位制度の
評価項目を用いたOJT

ケアの根拠をたどる 介護技術チェックシート

はじめに

- 介護プロフェッショナルキャリア段位制度(介護キャリア段位制度)は、介護職員の実際の現場での介護技術(実践的スキル)の評価を通じて、技術の向上をはかることを目的に設計されている仕組みです。
- 介護専門職に求められる「実践的スキル」について、実際の介護の現場で「できているのか」、「どこができていないか」を客観的な基準に照らして確認することで、職員の介護技術の「実際」が明らかとなります。
- 介護キャリア段位制度の評価基準は、日々の業務の中で「どうすればもっと良くできるか」「何ができていて、何が次の課題か」を共有するツールとして活用できるように、作られています。
- 本チェックシートは、介護キャリア段位制度の考え方にに基づき、基礎的な介護技術を中心に、OJT や日々の業務の振り返りで使えるように作成したものです。職員が自分のケアを振り返りながら、指導者とともに成長していくためのツールとしてご活用ください。

このチェックシートは、こんな方におすすめです

- OJT で何をどう教えるか迷っている指導的役割を担う方
- 自分のケアができているか確認したい介護職員の方
- 経験の浅い方からベテランまで、段階に応じた育成をしたい管理者の方

介護プロフェッショナルキャリア段位制度とは

- 介護プロフェッショナルキャリア段位制度は、介護職に求められる介護技術(実践的スキル)を、国が示した全国どちらの事業所・施設でも使うことができる、評価基準(共通のものさし)※を用いて評価・育成していく仕組みです。

※介護キャリア段位制度は、2012年に内閣府により創設されました。現在は厚生労働省所管の制度として(一社)シルバーサービス振興会により実施運営されています。

- 介護キャリア段位制度では、レベル2①からレベル4までの4段階で成長の道筋を示しています。

一般社団法人 シルバーサービス振興会

介護キャリア段位制度とは

介護職員が保有している介護の実践スキルについて、どのレベルまで保有している(できる)のか、**所属する事業所・施設で実践スキルの「できる」「できていない」評価を行い**、その評価結果をもとに全国共通のレベルにて認定します。

レベル	介護プロフェッショナルのレベル	わかる(知識)	できる(実践スキル)
レベル4	●一人前の仕事ができる段階 チーム内でリーダーシップ		
	チーム内でのリーダーシップ (例: サービス提供責任者、主任等) 部下に対する指示・指導 本レベル以上が「アセッサー」になれる	介護福祉士であること(国家試験合格)	「基本介護技術の評価」 「利用者視点での評価」 「地域包括ケアシステム&リーダーシップに関する評価」
レベル3	●指示等がなくとも、一人前の仕事ができる		
	利用者の状態像に応じた介護や他職種の連携等を行うための幅広い領域の知識・技術を習得し、的確な介護を実践	介護福祉士養成課程又は実務者研修修了 ※ 介護職員基礎研修修了でも可。	「基本介護技術の評価」 「利用者視点での評価」
レベル2	●一定の指示のもと、ある程度の仕事ができる		
	一定の範囲で、利用者ニーズや、状況の変化を把握・判断し、それに応じた介護を実践	介護職員初任者研修修了(※) ※ ホームヘルパー2級研修又は1級研修修了も含む。	「基本介護技術の評価」 「利用者視点での評価の一部」 (感染症対策・衛生管理など)
	基本的な知識・技術を活用し、決められた手順等に従って、基本的な介護を実践		「基本介護技術の評価」 (状況の変化に応じた対応を除く)

Copyright (C) Elderly Service Providers Association. All Rights Reserved

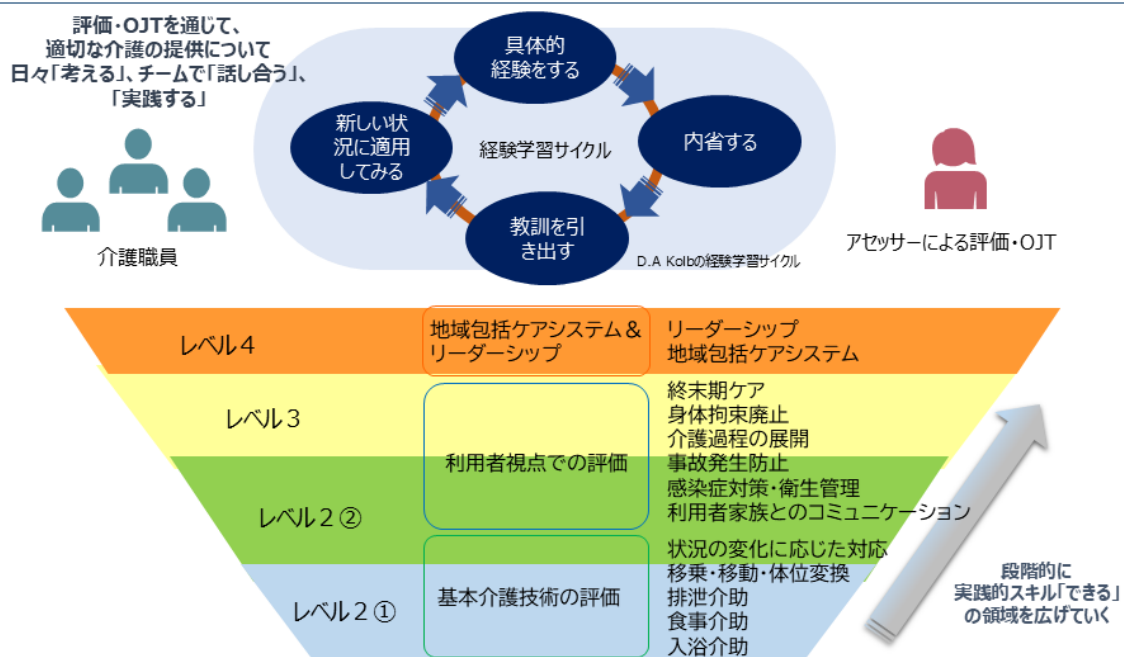
3

- 介護キャリア段位制度のレベル認定は、「わかる(知識)」と「できる(実践的スキル)」の両面を満たすことが要件となっています。例えば、レベル4認定取得には、「わかる(知識)」の要件として介護福祉士資格を有すること、「できる(実践的スキル)」の要件として、キャリア段位制度の全項目について「できている」ことを証明することが必要です。(詳しくは、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度アセッサー講習テキスト」を参照ください。)

- この制度の特徴は、育成と評価が一体化しているところです。現場での実践(OJT)を重視し、評価者(介護キャリア段位制度では、アセッサーと呼んでいます)と日常的に対話しながらスキルを伸ばしていきます。
- アセッサーによる評価では、どこまで「できているか」、何が「できていないか」を確認し、日々の業務で、実践的スキルが定着し、「できている(実践的スキルあり)」状態になることを目指します。
- 介護キャリア段位制度の評価項目を用いた定期的な振り返りの中で、自分の成長を実感しながら、スキルの定着と向上を図っていきましょう。

介護プロフェッショナルキャリア段位制度の評価基準の活用

- 介護キャリア段位制度は、介護職員の実践的スキル向上にむけた事業所内での効果的・効率的なOJTの仕組み作りを支援します。
- 介護キャリア段位制度の評価基準を用いた評価・OJTを通じて、介護職員の実践的スキルの向上を図り、学習のPDCAサイクルを事業所内に根付かせていくことを目指します。



- 介護キャリア段位制度のアセッサーとして活動するためには、所定する講習(アセッサー講習)を修了し、アセッサーとして登録する必要があります。

アセッサーは、評価(アセスメント)と育成(トレーニング)を行い、介護事業所・施設内において介護職員のキャリアアップを推進していく役割を担います。介護キャリア段位制度のアセッサーは、人材育成の推進役になります。(アセッサーについて詳しくは、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度アセッサー講習テキスト」を参照ください。)

介護キャリア段位制度の評価基準は「介護技術の共通のものさし」

- 介護キャリア段位制度の評価基準は、全国どちらの事業所・施設においても共通して使うことができます。評価基準を用いることで、職場や施設によって異なる慣習や声の大きな先輩の主観といったことにとらわれることなく、介護技術の基本に立ち返り、根拠に基づいた介護技術を着実に身につけることができます。

介護キャリア段位制度の評価基準を OJT に使ってみましょう！

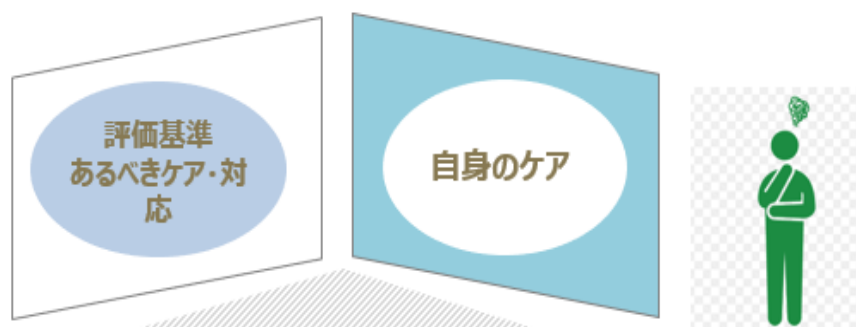
- 曖昧になりがちな指導内容に、具体的な根拠が持てる
 - 例:「食事介助の姿勢がよくわからない」→評価基準を見れば、「誤嚥を防ぐ座位姿勢」など具体的に示されています
- 新人もベテランも、共通の言語で話せる
 - 「できている・できていない」が主観ではなく、YES/NO で判断しやすい項目が揃っています
- 評価ではなく、育成が主眼
 - 評価基準＝「ダメ出し」ではなく、「こうすればもっと良くなる」という前向きな指導の指針になります

ケアの根拠をたどる 介護技術チェックシートとは

- この介護技術チェックシートは、介護プロフェッショナルキャリア段位制度の評価基準(介護スキルチェック項目)を用いて、介護行為・対応のポイントを、チェック式で示したものです。
- 日頃の業務、OJT の際の介護職員の行為・対応がどうであったか、「振り返り」を行うことは、とても重要です。日常の業務で何気なくやっている行為や対応の目的・意味を、振り返り、評価基準(介護スキルチェック項目)と照らし合わせてみましょう。
- 「なぜ、この行為を行っているのか?」「どのような意味があるのか?」「どういう点に気を付けるべきか?」「目の前の利用者にとってもっとよいケア・サービスを提供していくためには、どうしていけばよいのか?」—日頃の行為・対応を細分化して確認してみると、現状がみえ、課題がみえ、ケアのポイントがみえてきます。

ケアの根拠をたどるトレーニング

- 自分のケアについて、行為・対応の「根拠」を確認していく。
- あるべきケア対応と、自身のケアのギャップを見いだせるかどうか?
- ギャップ、疑問点を整理し、どうしていけばよいかを、指導者の支援をえながら、考えていく。
- 指導者の支援を得ながら、「着眼点」をみつけていく → 実践スキルの習得



「あるべきケア・対応」と照らし合わせることで
できていること、できていないことがみえてくる

- 評価項目は、介護プロフェッショナルキャリア段位制度のレベル2①相当、レベル2②相当、レベル3相当の一部に該当します。(※介護プロフェッショナルキャリア段位制度のレベル3相当の一部、レベル4相当の評価項目は、このチェックシートの対象外としています。)
- こちらの介護技術チェックシートでは、介護プロフェッショナルキャリア段位制度 の評価基準のうち、以下のものを扱っています。

大項目	中項目	介護キャリア段位のレベル
I.基本介護技術の評価	1. 入浴介助	レベル2①相当項目
	2. 食事介助	
	3. 排泄介助	
	4. 移乗・移動・体位変換	
	5. 状況の変化に応じた対応	
II.利用者視点での評価	1. 利用者・家族とのコミュニケーション	レベル2②相当項目
	3. 感染症対策・衛生管理	レベル2②・3相当項目
	4. 事故発生防止	レベル2②・3相当項目

- 介護プロフェッショナルキャリア段位制度の評価基準(148項目)については、介護キャリア段位制度ホームページ(<https://careprofessional.org/careproweb/jsp/>)、「キャリア段位制度アセッサー講習テキスト」、「介護キャリア段位制度介護スキルチェック項目 OJT ポケットガイド」に掲載していますので、あわせて参照ください。

I. 基本介護技術の評価 1. 入浴介助

(1)入浴前の確認ができる

<p>▶ 入浴の可否を確認するための観察・情報把握ができているか。 ▶ その際、利用者の立場に立ち、説明を行い、同意を得て対応しているか。 ▶ 利用者の状態に応じた入浴方法を選択できているか。</p>		
▶ 振り返り、深掘りしてみる		
①	バイタルサインの測定値を確認し、利用者へのヒアリング等による体調確認、意向確認を行い、入浴の可否について医療職等に確認したか。	▶ 利用者状態の観察、必要情報の把握はできていたか？
		<input type="checkbox"/> 利用者の体調確認、声かけ
		<input type="checkbox"/> バイタルサインの測定値の確認 ・血圧 (/ mmHg) ・脈拍 () ・体温 (°C)
		<input type="checkbox"/> 利用者の意向確認 (利用者の意思尊重、自己決定尊重)
		<input type="checkbox"/> 医療職等への確認 (医療職との連携)
		<input type="checkbox"/> 可否判断の結果 ()
②	バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた入浴方法が選択できたか。	▶ 利用者の状態に応じた入浴方法が選択できていたか？
		<input type="checkbox"/> 入浴方法の可否判断材料は？ () ・バイタルサイン、医療職の指示、既往歴、個別介護計画など
		<input type="checkbox"/> 選択した入浴方法 ()

OJT

説明と同意、観察、アセスメント、医療職との連携

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ 入浴の可否を確認するための観察及び情報把握ができるか、また**利用者の状態に応じた入浴方法**を選択できているか、対応を確認しましょう。
- ▶ 入浴前の確認として、**利用者の体調及び意向を確認し、利用者の身体及び気持ちの両面から状態を**把握することが必要です。(利用者主体、説明と同意)
- ▶ **利用者の状態に応じて、医療職等との連携・協働**ができているか確認しましょう。

(2)衣服の着脱ができる

▶ 利用者の立場に立ち、説明を行い、同意を得てから対応しているか。 ▶ 室温やプライバシーなど、周囲の環境に応じて適切な時間内に着脱ができているか。 ▶ 本人の能力にあわせた介護量・方法を選択できているか。		
▶ 振り返り、深掘りしてみる		
①	体調や気候に配慮した服装であるかを確認していたか。利用者の好みの服を選んでもらったか。	▶ 服装の選択の仕方はどうだったか？
		<input type="checkbox"/> 室温の確認、配慮
		<input type="checkbox"/> 利用者の体調確認、配慮
		<input type="checkbox"/> 利用者の意向確認（利用者の意思尊重、自己決定尊重）
	<input type="checkbox"/> 気温・体調・意向に配慮した服装の選択	
②	スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーに配慮したか。	▶ プライバシーへの配慮はできていたか？
		<input type="checkbox"/> プライバシーへの配慮（利用者の尊厳） ・配慮の仕方（ ） ・職員の視線の配慮
③	脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。	▶ 脱衣介助の手順は？
		<input type="checkbox"/> 健側から患側の順番での脱衣介助 （※脱健着患の手順の介助）
④	ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促したか。	▶ 自立支援はできていたか？
		<input type="checkbox"/> 自立動作を促す声かけ（自立支援）
		<input type="checkbox"/> 利用者自身ができる事の確認（ ）
	<input type="checkbox"/> 適切な時間内での着脱	
⑤	しわやたるみがないか確認したか。	▶ 衣服の整容の仕方はどうだったか？
		<input type="checkbox"/> 衣服整容の仕方（ ）

OJT

説明と同意、周囲の環境に応じた対応、アセスメント、脱衣介助、自立支援介護

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ チェック項目①: **利用者のその日の体調**、寒さ、暑さなど**利用者の体感への配慮**した選択ができているか、対応を確認しましょう。
- ▶ チェック項目③: 身体に麻痺のある利用者の方への対応、可動域制限を伴う利用者(どちらかといえど健側/患側にあたる等)に対しての配慮ができているかどうか、**利用者の状態を把握して、配慮した介助行為(脱健着患の手順での介助)**ができているかを確認しましょう。
- ▶ チェック項目④: 一部介助が必要な利用者だけではなく、例えば全介助が必要な利用者に対しても、**自立支援**の観点からの声掛けなど、促しの対応ができているか、対応を確認しましょう。

(3) 洗体ができる(浴槽に入ることを含む)

<p>▶ 利用者の立場に立ち、介助に際して説明を行い、同意を得ているか。</p> <p>▶ 利用者の状況に応じて、介助する部分を適切に選択し、介助を行うことができているか。</p>		
▶ 振り返り、深掘りしてみる		
①	末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。	▶ 洗体の手順・配慮事項を守っていたか？
		<input type="checkbox"/> 介助内容の説明と同意の確認
		<input type="checkbox"/> 洗体の介助手順（体調に配慮した介助） （ ） ・末梢から中枢の順序（心臓に負担をかけない配慮）
②	浴槽に入る時は、利用者に手すりや浴槽の縁をつかんでもらうとともに、バランスを崩さないよう身体を支え、入浴できたか。	▶ 入浴時の安全確保は十分だったか？
		<input type="checkbox"/> 介助内容の説明と同意の確認
		<input type="checkbox"/> 手すりや浴槽の縁をつかんでもらっていたか？
		<input type="checkbox"/> 利用者の身体の支え方は？（ ）
		<input type="checkbox"/> 湯温の確認をしたか？
		<input type="checkbox"/> 入浴時間はどうだったか？（利用者の意向、嗜好）
		<input type="checkbox"/> 心肺機能への影響を考慮していたか？
③	簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。	▶ 入浴機器の取り扱いはどうだったか？
		<input type="checkbox"/> 浴槽中の利用者の身体の位置確認、安全確保はできていたか？
		<input type="checkbox"/> 機器の使用方法を理解し、安全に入浴できていたか？
④	入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給ができたか。	▶ 入浴後の体調確認はどうだったか？
		<input type="checkbox"/> 入浴後の体調確認・声かけをしたか？
		<input type="checkbox"/> 入浴後の水分補給はできていたか？

OJT

説明と同意、洗体介助、安全確保、自立支援介護、
入浴機器使用

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ チェック項目①:心臓部に急激な刺激を与えないよう、また血行の促進、血液循環に配慮しているかどうかの観点から、末梢から中枢(体幹)の順で利用者の体を洗うことができているか、対応を確認しましょう。
- ▶ チェック項目③:入浴機器の使用方法や手順を理解し、入浴機器を用いて、事故なく安全に入浴介助が実施できているか、対応を確認しましょう。

I. 基本介護技術の評価 2. 食事介助

(1) 食事の準備を行うことができる

<ul style="list-style-type: none"> ▶ 安全な食事を行うために、利用者の状態・状況に応じた準備ができているか。 ▶ 食べる意欲を促進する、利用者の状況に応じた準備ができているか。 		
▶ 振り返り、深掘りしてみる		
①	声を掛けたり肩を叩いたりするなどして、利用者の覚醒状態を確認したか。	▶ 安全な食事のための準備（覚醒・意識状態、意欲の確認）
		<input type="checkbox"/> 利用者の覚醒状態、意識状態の確認の仕方（ ） <input type="checkbox"/> 利用者の意欲を確認したか？（自己決定尊重、説明と同意）
②	とろみつけが必要とされる利用者の食事に、とろみがついていることを確認したか。	▶ 安全な食事のための準備（利用者の状態に応じた準備）
		<input type="checkbox"/> とろみつけが必要な利用者へのとろみつけの確認は？
③	禁忌食の確認をしたか。	▶ 安全な食事のための準備（利用者の状態に応じた準備）
		<input type="checkbox"/> 禁忌食の有無の確認、禁忌食の確認はできていたか？
④	飲み込むことができる食べ物の形態かどうかを確認したか。	▶ 安全な食事のための準備（利用者の状態に応じた食べ物の形態の選択）
		<input type="checkbox"/> 飲み込み可能な形態かどうか確認できていたか？
⑤	食べやすい座位の位置や体幹の傾きはないか等座位の安定を確認したか。	▶ 安全な食事姿勢の確認
		<input type="checkbox"/> 食べやすい座位位置の確認ができていたか？
		<input type="checkbox"/> 体幹の傾きがある場合、座位の調整をしたか？
	<input type="checkbox"/> 座位の安定が確保できていたか？	
⑥	顎が引けている状態で食事が取れるようにしたか。	▶ 安全な食事姿勢の確認（誤嚥を防ぐ座位姿勢の確認）
		<input type="checkbox"/> 顎が引けている状態となるよう確認していたか？

OJT

アセスメント、安全な食事のための準備、他職種との連携

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ 利用者の身体状況に応じた、安全な食事のための準備ができているか、着眼点・対応を確認しましょう。
- ▶ 食事の自立に向けた介護には、他職種との連携が重要となります。座位の調整：理学療法士との連携、食事自助具等の選択：作業療法士、摂食：言語聴覚士等との連携・協力が有効です。

(2) 食事介助ができる

▶ 利用者の状態に応じ、できる限り主体的に「食事を楽しむ」ことができるよう介助することができるか。							
▶ 振り返り、深掘りしてみる							
①	食事の献立や中身を利用者に説明する等食欲がわくように声かけを行ったか。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">▶ 食べる意欲が引き出されるような配慮ができていたか？</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>声かけの仕方はどうだったか？ (自己決定尊重、説明と同意)</td> </tr> </table>	▶ 食べる意欲が引き出されるような配慮ができていたか？		<input type="checkbox"/>	声かけの仕方はどうだったか？ (自己決定尊重、説明と同意)		
▶ 食べる意欲が引き出されるような配慮ができていたか？							
<input type="checkbox"/>	声かけの仕方はどうだったか？ (自己決定尊重、説明と同意)						
②	利用者の食べたいものを聞きながら介助したか。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">▶ 主体性発揮に向けた食事介助</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>食べたいものを聞きながら介助していたか？ (自己決定尊重、利用者の嗜好)</td> </tr> </table>	▶ 主体性発揮に向けた食事介助		<input type="checkbox"/>	食べたいものを聞きながら介助していたか？ (自己決定尊重、利用者の嗜好)		
▶ 主体性発揮に向けた食事介助							
<input type="checkbox"/>	食べたいものを聞きながら介助していたか？ (自己決定尊重、利用者の嗜好)						
③	利用者と同じ目線の高さで介助し、しっかり咀嚼して飲み込んだことを確認してから次の食事を口に運んだか。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">▶ 誤嚥や窒息の防止に向けた食事介助</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>利用者と同じ目線の高さで介助していたか？</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>利用者の咀嚼・飲み込みを確認して介助していたか？</td> </tr> </table>	▶ 誤嚥や窒息の防止に向けた食事介助		<input type="checkbox"/>	利用者と同じ目線の高さで介助していたか？	<input type="checkbox"/>	利用者の咀嚼・飲み込みを確認して介助していたか？
▶ 誤嚥や窒息の防止に向けた食事介助							
<input type="checkbox"/>	利用者と同じ目線の高さで介助していたか？						
<input type="checkbox"/>	利用者の咀嚼・飲み込みを確認して介助していたか？						
④	自力での摂食を促し、必要時に介助を行ったか。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">▶ 主体性発揮に向けた支援、自立支援介護</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>自力摂食を促したか？</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>利用者の疲労、状況を把握・判断して、必要時の介助をしていたか？</td> </tr> </table>	▶ 主体性発揮に向けた支援、自立支援介護		<input type="checkbox"/>	自力摂食を促したか？	<input type="checkbox"/>	利用者の疲労、状況を把握・判断して、必要時の介助をしていたか？
▶ 主体性発揮に向けた支援、自立支援介護							
<input type="checkbox"/>	自力摂食を促したか？						
<input type="checkbox"/>	利用者の疲労、状況を把握・判断して、必要時の介助をしていたか？						
⑤	食事の量や水分量の記録をしたか。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">▶ アセスメントに資する情報の記録となっていたか？</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td>食事・水分摂取量の記録</td> </tr> </table>	▶ アセスメントに資する情報の記録となっていたか？		<input type="checkbox"/>	食事・水分摂取量の記録		
▶ アセスメントに資する情報の記録となっていたか？							
<input type="checkbox"/>	食事・水分摂取量の記録						

OJT

説明と同意、主体性発揮に向けた支援、自立支援介護、記録

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ 食事は、栄養を摂取するだけでなく、食を楽しむという**人間の尊厳**にかかわる大切な行為です。意欲がわく声かけ、内容の説明、**主体性発揮に向けた支援**は、利用者の一部介助、全介助の別を問わないことは、言うまでもありません。
- ▶ チェック項目⑤：食事量、水分量についての記録ができているか、アセスメントに必要な情報が記録できているか、確認しましょう。

(3)口腔ケアができる

<p>▶ 利用者の立場に立ち、説明を行い、同意を得てから介助しているか。</p> <p>▶ 口腔ケアにより、義歯のヘア、歯・歯茎・舌など口腔全体の清潔を保つことができているか。</p> <p>▶ 口腔内の観察を行い、変化がある場合は、医療職への報告などの対応ができているか。</p>		
▶ 振り返り、深掘りしてみる		
①	出来る利用者には、義歯の着脱、自分で磨ける部分のブラッシング、その後のうがいを促したか。	▶ 自立支援介護、口腔の清拭保持ができているか？
		<input type="checkbox"/> 介助内容の説明と同意の確認 (自己決定尊重、説明と同意)
		<input type="checkbox"/> 自力動作を促す声かけ (自立支援)
		<input type="checkbox"/> 口腔ケアの仕方 ()
②	着脱を理解してもらい、口を大きく開けて口腔内に傷をつけないよう配慮しながら、無理なく行ったか。	▶ 安全な義歯着脱の介助ができているか？
		<input type="checkbox"/> 介助内容に関する説明と同意 (自己決定尊重、説明と同意)
		<input type="checkbox"/> 安全な義歯の外し方 ()
③	スポンジブラシやガーゼ等を用いた清拭について、速やかに行い、利用者には不快感を与えなかったか。	▶ 口腔清拭の介助の仕方はどうだったか？
		<input type="checkbox"/> 介助内容の説明と同意の確認 (自己決定尊重、説明と同意)
		<input type="checkbox"/> 口腔清拭の仕方 ()
		<input type="checkbox"/> 適切な時間内での介助
		<input type="checkbox"/> 不快感を与えないよう配慮できていたか？
④	歯磨きや清拭の後、口腔内を確認し、磨き残し、歯茎の腫れ、出血等がないか確認したか。	▶ 口腔内の確認・観察、健康状態の確認をしたか？
		<input type="checkbox"/> 介助内容の説明と同意の確認 (自己決定尊重、説明と同意)
		<input type="checkbox"/> 磨き残しの確認と対応をしたか？ (口腔清潔の保持)
		<input type="checkbox"/> 口腔内の状態観察をしたか？ ・歯茎の腫れ、出血等の有無確認

OJT

説明と同意、口腔ケア、観察

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ 小項目：義歯を使用している利用者への介助の仕方、口腔清拭を要する利用者への介助の仕方など、多様な利用者状態を想定した評価項目から構成されています。
- ▶ チェック項目③：口腔ケアでは、舌や頬にある粘膜についても、傷つけないように清潔を保つことが求められます。口腔の奥に指やブラシが入ることで痛みを感じたり、嘔吐してしまう場合もあり、利用者ごとの状態にあわせて、不快感を与えないように行う必要があります。
- ▶ チェック項目④：口腔ケアを通して、どのような観察を行っていたか、他職員と共有すべき視点を持っているか、確認しましょう。

I. 基本介護技術の評価 3. 排泄介助

(1) 排泄の準備を行うことができる

▶ 排泄の準備を十分に行い、利用者の不快感や羞恥心の軽減につながる、効率のよい介助ができていますか。	
▶ 利用者の立場に立ち、介助内容の説明を行い、同意を得ているか。	
▶ 排泄介助時に、健康状態の確認、立ち上がりなどの動作機能の確認を実施することができているか。	
▶ 振り返り、深掘りしてみる	
① 排泄の間隔を確認したか。	▶ 利用者の状態の把握・健康状態の確認はできていたか？
	<input type="checkbox"/> 排泄間隔の確認の仕方 ()
② 排泄介助に当たり、介助内容を伝え、利用者の同意を得たか。	▶ 介助内容の説明と同意の仕方はどうだったか？
	<input type="checkbox"/> 利用者への声かけの仕方 (羞恥心/プライバシーへの配慮)
	<input type="checkbox"/> 介助内容の説明と利用者の同意確認 (自己決定の尊重、説明と同意、尊厳保持)
③ 利用者のADLを把握し、排泄する上で、できる部分は利用者にやらせてもらうようにしたか。	▶ 自立支援はできていたか？
	<input type="checkbox"/> 利用者の ADL の把握の仕方 (動作機能の確認)
	<input type="checkbox"/> 自力での対応を促したか？

OJT

観察、説明と同意、アセスメント、自立支援介護

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ チェック項目②:排泄介助の声かけでは、**羞恥心への配慮、プライバシーへの配慮**が求められます。自尊心を傷つけないよう、また無理強いしないよう、**利用者の尊厳に配慮**して介助内容を伝えることができているか、介護職員の対応を確認します。
また、他者への意思伝達が難しい利用者の場合にも、**利用者の意思をくみ取る対応、意思を尊重する対応**ができているかは、重要となります。
- ▶ チェック項目③:一部介助が必要な利用者だけではなく、例えば全介助が必要な利用者に対しても、自立支援の観点からの声掛けなど、促しの対応ができているか、対応を確認しましょう。

(2)トイレ(またはポータブルトイレ)での排泄介助ができる

<p>▶ 安全かつ清潔な排泄介助ができていますか。</p> <p>▶ 利用者の立場に立ち、説明を行い、同意を得てから介助をしているか。</p> <p>▶ 利用者の状態に応じた介助方法を選択して、対応できているか。</p>		
▶ 振り返り、深掘りしてみる		
①	トイレ(またはポータブルトイレ)で、利用者の足底がついているか、前屈姿勢がとれているか等座位の安定を確認したか。	▶ 座位安定を確保できていたか？
		<input type="checkbox"/> 座位の安定の確認 ・足底がついた状態であることの確認 ・前屈姿勢が取れていることの確認
②	トイレ(またはポータブルトイレ)での排泄の際、カーテンやスクリーンを使用したり、排泄時にはその場を離れ、排泄終了時には教えてくださいと説明する等してプライバシーに配慮したか。	▶ 羞恥心/プライバシーへの配慮はできていたか？
		<input type="checkbox"/> プライバシーへの配慮 (尊厳保持) <input type="checkbox"/> いつでも呼び出せる環境整備と適切な距離の確保
③	ズボン、下着を下ろす了承を得て、支えながら下ろしたか。	▶ 安全と尊厳を踏まえた脱衣介助であったか？
		<input type="checkbox"/> 脱衣に関する声かけと了承(尊厳保持、利用者の意思尊重) ・ズボン、下着を下ろすことの声かけ ・ズボン、下着を下ろすこと了承(同意)の確認 <input type="checkbox"/> 身体を支えながら、ズボン、下着を下ろしていたか
④	排泄後、利用者にトイレトーパー等で拭いてもらい、拭き残しがあれば清拭を行うとともに、利用者の手洗いを見守る等により清潔保持をしたか。	▶ 自立支援の介護と清潔保持ができていたか？
		<input type="checkbox"/> 自力での清拭を促したか？ (自立支援、利用者の意思尊重)
		<input type="checkbox"/> 拭き残しの介助の仕方はどうだったか？ <input type="checkbox"/> 手洗いの介助の仕方 ()
⑤	失禁かトイレでの排泄か、排泄物の量や性状について記録をしたか。	▶ アセスメントに資する情報の記録となっていたか？
		<input type="checkbox"/> 排泄記録のつけ方
⑥	排泄後、利用者の体調確認を行ったか。	▶ 排泄後の体調確認はどうだったか？
		<input type="checkbox"/> 排泄後の体調確認・声かけをしたか？

OJT

説明と同意、排泄介助、自立支援介護、記録

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ 排泄は**人間の尊厳**にかかわる行為です。一見、介護慣れをしているように見える利用者であっても、**羞恥心**があって我慢しているということを常に心に留めながら介助を行う必要があります。
- ▶ チェック項目⑤:排泄物の量、性状の記録ができているかどうか、アセスメントに必要な情報が記録できているか、確認しましょう。

(3)おむつ交換を行うことができる

<p>▶ 利用者の状態(どこまで対応できるかなど)に応じた、介助の仕方を選択できているか。</p> <p>▶ 利用者の立場に立ち、説明を行い、同意を得てから介助をしているか。</p>		
▶ 振り返り、深掘りしてみる		
①	利用者に尿意、便意の有無、排泄した感じの有無を聞き、おむつ・パッドを換えることなどの介助内容を伝え、承諾を得ているか。	▶ 介助内容の説明と同意はできていたか？
		<input type="checkbox"/> 利用者への声かけ（尊厳保持） ・尿意・便意の有無 ・排泄した感じの有無の確認 <input type="checkbox"/> 介助内容の説明と同意（自己決定尊重、尊厳保持）
②	おむつ・パッド交換の際、カーテンやスクリーンを使用する等してプライバシーに配慮したか。	▶ 羞恥心/プライバシーへの配慮ができていたか？
		<input type="checkbox"/> プライバシー配慮の仕方（尊厳保持） （ ）
		<input type="checkbox"/> 清拭が必要な範囲の観察ができていたか？
		<input type="checkbox"/> 迅速かつ丁寧な介助であったか？
③	おむつ・パッドを装着後、衣服、寝具等に仕上がらないように整えたか。	▶ 褥瘡防止の対応ができていたか？
		<input type="checkbox"/> おむつ等装着後の衣服・寝具の整容の仕方（ ） ・仕上がらないように整える
④	排泄時刻、排泄物の量・性状の異常について記録をしたか。	▶ アセスメントに資する情報の記録となっていたか？
		<input type="checkbox"/> 排泄記録のつけ方（ ）

OJT

説明と同意、自立支援介護、記録

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ チェック項目①:他者への意思伝達が難しい利用者の場合にも、**利用者の意思をくみ取る対応、意思を尊重する対応**ができているかは、重要となります。定時時交換している場合であっても、同意確認は重要です。
- ▶ チェック項目④:排泄物の量、性状の記録ができているかどうか、アセスメントに必要な情報が記録できているか、確認しましょう。

I. 基本介護技術の評価 4. 移乗・移動・体位変換

(1)起居の介助ができる

<ul style="list-style-type: none"> ▶ 起居に入る前から起居に至るまでの利用者の状態把握、意思確認、動機付けができていますか。 ▶ 利用者の立場に立ち、説明を行い、同意を得てから介助をしているか。 ▶ ボディメカニクスの実践、利用者負担を軽減したケアができていますか。 		
▶ 振り返り、深掘りしてみる		
①	起きる前に、利用者の疾病等に応じて、体調や顔色を確認したか。	▶ 利用者の状態の観察、必要情報の把握はできていたか？
		<input type="checkbox"/> 体調確認、顔色確認
		<input type="checkbox"/> 疾病等の把握、記録の確認
		▶ 利用者の意思確認、動機づけをしていたか？
		<input type="checkbox"/> 何のための起居か説明していたか？ (動機づけ、利用者の不安の軽減、説明)
<input type="checkbox"/> 利用者の意思確認は？ (自己決定尊重)		
②	全介助が必要な利用者の上体がカーブを描くように起こしたか。	▶ ボディメカニクスの実践、利用者負担軽減ができていたか？
		<input type="checkbox"/> 起居動作の仕方 (上体がカーブを描くよう)
③	一部介助が必要な利用者について、足を曲げてもらう、柵をつかんでもらう等利用者の残存機能を活かしながら起居の支援を行ったか。	▶ 利用者の主体性尊重、QOL 向上、残存機能・能力の活用、自立支援介護ができていたか？
		<input type="checkbox"/> 協力動作を促していたか？
		<input type="checkbox"/> 残存機能を活かしていたか？
④	利用者を側臥位にし、テコの原理を活用しながら、無理のない起居の介助を行ったか。	▶ ボディメカニクスの実践、利用者負担軽減ができていたか？
		<input type="checkbox"/> 起居動作の仕方 (側臥位にし、テコの原理を活用した介助)

OJT

観察、説明と同意、ボディメカニクス実践、自立支援介護

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ 小項目:こちらには一部介助が必要な利用者を選定した評価と、全介助が必要な利用者を選定した評価が含まれます。様々な**利用者状態にあわせた介助**ができていますか、対応を確認しましょう。
- ▶ チェック項目②:こちらは、全介助が必要な利用者を選定の上、評価する項目です。介護者の腕の力で起こすのではなく、利用者の頭が動く軌跡に注意し、重心移動を利用して身体を起すことができているか、対応を確認しましょう。

(2)一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる

▶ 一部介助による安全な移乗ができているか。 ▶ 利用者の動作能力の見極め、自立支援、必要な動作のみの介助ができているか。 ▶ 利用者の立場に立ち、説明を行い、同意を得てから介助をしているか。		
▶ 振り返り、深掘りしてみる		
①	介助を始める前に、車いすのフットレスト(フットサポート)の位置、ブレーキの止め忘れ、動作不良の有無、タイヤの空気圧を予め確認したか。	▶ 移乗前の車いすの安全確認はできていたか？
		<input type="checkbox"/> フットレストの位置確認
		<input type="checkbox"/> ブレーキ確認
		<input type="checkbox"/> 動作不良の有無の確認
②	利用者に健側の手でベッドから遠い方のアームレスト(アームサポート)をつかんでもらい、患側を保護しながら前傾姿勢で立ちあがるよう、声かけ、介助を行ったか。	▶ 自立支援の介助:声かけ、タイミングを合わせた介助ができていたか？
		<input type="checkbox"/> 利用者に健側の手でベッドから遠い方のアームレスト(アームサポート)をつかんでもらう声かけ
		<input type="checkbox"/> 患側を保護しながら前傾姿勢で立ちあがるよう、声かけ
		<input type="checkbox"/> 利用者タイミングを合わせた介助であったか？
③	利用者の健側の足を軸にして体を回転させて、車いすに移乗することができたか。	▶ 自立支援の介助、安全な移乗ができていたか？
		<input type="checkbox"/> 利用者の健側の足を軸にして体を回転させての移乗・健側の把握ができていたか？
④	スライディングボードやスライディングシート等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。	▶ 福祉用具を用いた安全な移乗ができていたか？
		<input type="checkbox"/> 福祉用具は、定められた手順・方法(マニュアル等)に沿った方法で扱っていたか？ 介助方法は安全であったか？

OJT

車いすの安全確認、説明と同意、自立支援介護、福祉用具の使用

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- **利用者の状況を確認しながら、必要な動作のみ介助**することが、**自立支援**に繋がります。
- チェック項目②③:身体に麻痺がある利用者への対応の他、何らかの可動域制限をとまなう利用者に対しての配慮ができているかどうかの観点に立ち、対応を確認しましょう。

(3)全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる

- ▶ 全介助による安全な移乗ができていますか。
- ▶ 利用者の状態(全介助に至った理由/現病歴など)を把握し、状態に応じた声かけを行いながら、介助できているか。

▶ 振り返り、深掘りしてみる

①	介助を始める前に、車いすのフットレスト(フットサポート)の位置、ブレーキの止め忘れ、動作不良の有無、タイヤの空気圧を予め確認したか。	▶ 移乗前の車いすの安全確認はできていたか？	
		<input type="checkbox"/>	フットレストの位置確認
		<input type="checkbox"/>	ブレーキ確認
		<input type="checkbox"/>	動作不良の有無の確認
②	移乗がしやすいよう、ベッドの高さを調整するとともに、利用者の足底がついた状態で介助を行ったか。	▶ 安全な移乗介助ができていたか？	
		<input type="checkbox"/>	ベッドの高さ調整はどうだったか？
③	利用者の体と密着させる、利用者の腰に手を回す、利用者に介護者の肩に手をまわしてもらおう等、移乗がしやすい体勢をとったか。	▶ 自立支援の介助:移乗しやすい体勢確保、声かけをしながらの介助ができていたか？	
		<input type="checkbox"/>	協力動作の促し方()
④	利用者の体をゆっくりと回転させ、車いすに深く座らせることができたか。スライディングボードやスライディングシート等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って安全に移乗し、車いすに深く座らせることができたか。	▶ 自立支援の介助:声かけをしながらの介助、安全な移乗ができていたか？	
		<input type="checkbox"/>	協力動作の促し方()
		<input type="checkbox"/>	利用者の体をゆっくりと回転させていたか？
		<input type="checkbox"/>	車いすの座面に深く座らせていたか？
⑤	移乗用リフト等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。	▶ 福祉用具を用いた安全な移乗	
		<input type="checkbox"/>	福祉用具は、定められた手順・方法(マニュアル等)に沿った方法であったか？ 安全に移乗できていたか？

OJT

車いすの安全確認、自立支援介護、福祉用具の使用

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ 全介助であっても、頭を動かさず、足に力をいれてみるなど、**協力動作の促し**によって、介護職員の介護負担も軽減できます。

(4)杖歩行の介助ができる

▶ 利用者の能力を活用しながら、安全性に配慮し、転倒の危険性を考慮した介助ができているか。			
▶ 振り返り、深掘りしてみる			
①	利用者の杖を持つ手と反対側のやや斜め後ろに立ったか。	▶ 利用者の有している力を活かす介助、能力開発、自立支援介護ができていたか？	
		<input type="checkbox"/>	利用者の杖を持つ手と反対側のやや斜め後ろに立ち、見守っていたか？（転倒リスクの考慮）
②	二動作歩行や三動作歩行の声かけを行えたか。	<input type="checkbox"/>	声かけの仕方（安全配慮、自立支援介護） ()
③	急がせず、利用者のペースに合った介助・誘導を行ったか。	<input type="checkbox"/>	利用者のペースに合った介助・誘導であったか？ (安全配慮、自立支援介護)

OJT

杖歩行介助、自立支援介助

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ 杖歩行は、**利用者の状態**によって、介護量が大きく異なります。適切な介護量で歩行の機会を提供することにより、利用者の今後の能力が大きく違ってきます。
- ▶ 杖歩行は転倒リスクも高く、介助の方法によっては骨折などの事故につながりかねず、留意が必要です。介護の基本にあるのは、**利用者の残存能力と本人の能力の開発**により、自立生活を営むための支援です。正しい介護技術の選択と、事故防止が重要な介護行為です。
- ▶ 二動作歩行の声かけ例：(右足が患側の場合)杖、左、杖、左、杖など。
三動作歩行の声かけ例：(右足が患側の場合)杖、右、左、杖、右、左など。

(5)体位変換ができる

- ▶ 利用者の立場に立ち、説明を行い、同意を得てから介助をしているか。
- ▶ 利用者の状態や程度に応じて、効果的な声かけや利用者自身の残存能力を活かした自立支援に向けた介助ができているか。

▶ 振り返り、深掘りしてみる

①	利用者の膝を立て、テコの原理を活用しながら、体位変換したか。	▶ ボディメカニクスの実践ができていたか？	
		<input type="checkbox"/>	介助内容の説明と同意
		<input type="checkbox"/>	利用者の膝を立て、テコの原理を活用した体位変換
②	横向きになることができる人には自力で横になってもらったり、膝を自分で曲げられる人には自分で曲げてもらうなど、利用者の残存機能を活かしながら体位変換したか。	▶ 自立支援の介助、声かけができていたか？	
		<input type="checkbox"/>	協力動作の促しの声かけ ()
		<input type="checkbox"/>	残存機能を活かした体位変換 ()
③	ベッドの下の方にずり落ちた場合には姿勢を正すなど、身体に摩擦を与えないように体位変換したか。	▶ 安全な体位変換であったか？	
		<input type="checkbox"/>	身体に摩擦をあたえないよう、体位変換していたか？
④	体位変換後、クッションやタオルなどを使用し、安楽な体位保持への介助を行ったか。	▶ 安楽な姿勢の保持、褥瘡防止の介助ができていたか？	
		<input type="checkbox"/>	安楽な体位保持の介助 ・クッションやタオルの使用 ・安楽な体位保持()

OJT

ボディメカニクス実践、自立支援介助、体位変換

介護キャリア段位制度：レベル2①相当項目

- ▶ 体位変換は、寝返り・起き上がりなど、**次の動作に進むための基本の動作**にあたります。体位変換の能力の向上は、**利用者の動作能力の可能性**を高めます。
- ▶ チェック項目②：全介助が必要な利用者に対しても、声掛けなどにより、**残存機能を活かすための促し**の対応ができているか、対応を確認します。
- ▶ チェック項目③：こちらは、下方へのずり落ちの場合に限りません。ベッド上での水平移動の場合には、利用者を押したり、介護者の腕力によるのではなく、利用者の身体を小さくする、利用者の身体に摩擦を与えないように、利用者の接地面を小さくする、重心の高さをあわせて密着するなどの対応が求められます。

I. 基本介護技術の評価 5. 状況の変化に応じた対応

(1) 咳やむせこみに対応ができる

▶ 食事中や水分補給時に際して、咳やむせこみなど誤嚥の兆候に気づき、素早く適切に介助ができているか。	
▶ 振り返り、深掘りしてみる	
咳の強さ、顔色等の観察をしたか。	▶ 観察できていたか？
	<input type="checkbox"/> 発生時の状況（ ） 例) 食事中 / 水分摂取中 など <hr/> 発生時の利用者の状況 ・咳の程度 (なし 弱い 強い) ・むせこみの程度 (軽度 中程度 重度) <input type="checkbox"/> ・利用者の表情 () ・顔色の観察 () ・呼吸はどうか () ・意識はあるか ()
③ 利用者が食物がつかえてむせこんでいる場合に、次の順で適切な対応ができたか。 ・頭が胸よりも低くなるように、前かがみの姿勢にしたか。 ・咳をするように声かけをしたか。 ・てのひらで背中(肩甲骨の間)をしっかり叩いたか。 ・(それでも改善しない場合)医療職に連絡したか。	▶ 速やかに適切な対応が取れていたか？
	<input type="checkbox"/> ・利用者の姿勢 () ・声かけ () ・介護職員の対応 ()
	▶ 食物がつかえてむせこんでいる場合、窒息を防ぐ対応、医療職との連携が取れていたか？
	<input type="checkbox"/> ・利用者の姿勢 () ・声かけ () ・介護職員の対応() ・医療職との連携()
	▶ 対応後の利用者の状態はどうだったか？その後の経過は？
<input type="checkbox"/> 対応後の利用者の状態 (むせこみはおさまったか、顔色、呼吸、バイタル等) <input type="checkbox"/> 介護職が行った対応 ()	
③ 記録をしたか。	<input type="checkbox"/> アセスメントに資する記録になっていたか？

OJT

観察スキル、窒息を防ぐ対応、医療職との連携、記録スキル

介護キャリア段位制度：レベル2②相当項目

- ▶ 高齢者は嚥下機能障害があることが多いため、日ごろから緊急時の対応手順等を確認しておくことにより、いざというとき落ち着いて対応できます。
- ▶ 食事中や水分補給時に際して、咳やむせこみなど誤嚥の兆候に気づき、素早く適切に介助が行えているかを確認しましょう。
- ▶ 呼吸器系に何らかの異常が見られた場合は、まず医療職へ連絡することが重要です。

(2)便・尿の異常(血便・血尿、バイタル、ショック状態など)に対応ができる

▶ 排泄介助の際に、排泄物の性状だけでなく、血液混入の有無やバイタルなど、健康上異常だと思われる兆候を確認する視点を持っているか。また兆候が発見された際は、適切な対応ができていますか。

振り返り、深掘りしてみる

①	本人の様子(バイタル、ショック状態等)や便、尿(色やにおい、血液が混入していないかどうか等)を観察・確認したか。	▶ 観察できていたか？	
		<input type="checkbox"/>	発見時の状況 () 例) 排泄介助時、おむつ交換時 など
②	原因の探索と確認をしたか。	▶ 原因探索と確認ができていたか？	
		<input type="checkbox"/>	原因探索(原因分析)の内容 ()
③	(血液の混入、悪臭、バイタル値の異常やショック状態が観察された場合等)医療職に連絡したか。	▶ 医療職との連携ができていたか？	
		<input type="checkbox"/>	医療職との連携、報告事項 ()
④	記録をしたか。	▶ 対応後の利用者の状態はどうだったか？その後の経過は？	
		<input type="checkbox"/>	対応した結果、利用者の状態はどうなったか？ ()
④	記録をしたか。	<input type="checkbox"/>	アセスメントに資する記録になっていたか？

OJT

観察スキル、原因探索、医療職との連携、記録スキル

介護キャリア段位制度：レベル2②相当項目

- ▶ 排泄物からは、多くの健康上の情報が得られます。排泄介助は、排泄介助の場面で、**健康を確認する**という心づもりが必要となります。
- ▶ 排泄介助の際に、尿や便の異常の兆候を確認する、**観察の視点**をもっているか、確認しましょう。発見後は、自分だけで判断せず、医療職に的確に報告し、その原因を探求することも重要です。

(3)皮膚の異常(炎症、表皮剥離、水疱、潰瘍など)に対応ができる

▶ 利用者と日常接する中で利用者を観察する視点をもっているか。また、皮膚の異常が発見された際は、適切な対応ができているか。	
▶ 振り返り、深掘りしてみる	
① 皮膚の症状(大きさ、深さ、出血・浸出液・臭気の有無等)や本人の様子(痛みやかゆみの有無等)の観察をしたか。	▶ 観察できていたか？
	<input type="checkbox"/> 発見時の状況 () ・入浴介助時 など
	<input type="checkbox"/> 皮膚の症状 () ・大きさ ・深さ ・出血の有無 ・浸出液の有無 ・臭気の有無 など
② 原因の探索と確認をしたか。	▶ 原因探索と確認ができていたか？
	<input type="checkbox"/> 原因探索の内容 ()
	<input type="checkbox"/> 確認したこと () ・身体状況・利用者本人の訴え・自覚症状の確認 ・既往歴確認 ・ケア行為・処置との関係 ・行動観察、生活動作との関係 ・環境要因の確認 など
③ (かゆがっていたり、炎症、表皮剥離、水疱、潰瘍が観察された場合等)医療職に連絡したか。	▶ 医療職との連携ができていたか？
	<input type="checkbox"/> 医療職との連携、報告した事項 ()
	▶ 対応後の利用者の状態はどうだったか？その後の経過は？
④ 記録をしたか。	<input type="checkbox"/> 対応した結果、利用者の状態はどうなったか？ ()
	<input type="checkbox"/> アセスメントに資する記録になっていたか？

OJT

観察スキル、原因探索、医療職との連携、記録スキル

介護キャリア段位制度：レベル2◎相当項目

- ▶ 利用者と日常接する中で利用者を観察する視点をもっているか、皮膚の異常を発見することができるか、確認しましょう。
- ▶ 入浴や更衣介助の際に、細かく観察することは、大切な介護の視点です。介護職として**観察の視点**をもち、わずかな変化に気付くことができているか、確認しましょう。

(4) 認知症の方がいつもと違う行動(攻撃的行動、突発的行動、対応が困難な行動等)を行った場合に対応できる

▶ 認知症の方のいつもと違う行動のその背景にある原因を追究し、必要な対応ができているか。	
▶ 振り返り、深掘りしてみる	
①	いつもと違う行動が見られた利用者を観察し、脅威や不安を感じない(利用者の表情・行動にネガティブな変化がない)よう近づき、声をかける等対応し、利用者の行動や表情から不安・不快感等を軽減させることができたか。
	▶ 観察できていたか？
	<input type="checkbox"/> 発見の場面 (BPSD(周辺症状)が見られた場面) ()
	<input type="checkbox"/> 利用者の様子(BPSD 発現時の利用者の状態) ()
	▶ 不安・不快感等軽減にむけた対応はできていたか？
<input type="checkbox"/> 介護職員の対応 () ・脅威や不安を感じない(利用者の表情・行動にネガティブな変化がない)よう近づき、声をかける など	
▶ 対応後の利用者の様子はどうだったか？	
<input type="checkbox"/> 対応を受けて、利用者の状態 () ・不安・不快感等の軽減	
②	いつもと違う行動が見られた利用者の表情、感情表現、行動などいつもと違う様子について確認し、なぜそのような行動をしたか、職員対応や本人の生活環境の変化等を確認し、記録したか。
	▶ 観察の視点: BPSD の発現につながった背景の要因分析:
	<input type="checkbox"/> 背景にある要因分析:観察 () ・当時の職員の対応 ・本人の生活環境の変化(場所、人、時系列、ルーティンの乱れの影響など)
<input type="checkbox"/> 確認した結果の記録	
③	いつもと違う行動が見られた利用者がなぜそのような行動をしたかを、心身状況、生活歴、価値観・嗜好、家族・他者との関係、家族から収集した情報等を確認し、記録したか。
	▶ 情報収集の視点: BPSD の発現につながった背景の要因分析
	<input type="checkbox"/> 背景にある要因分析:情報収集 () ・心身状況 ・生活歴 ・価値観・嗜好など ・家族・他者との関係 ・家族から収集した情報 などからの考察
<input type="checkbox"/> アセスメントに資する記録になっていたか？	

1. 入浴介助
2. 食事介助
3. 排泄介助
4. 移乗・移動・体位変換
5. 状況の変化に応じた対応
1. 利用者・家族とのコミュニケーション
3. 感染症対策・衛生管理
4. 事故発生防止

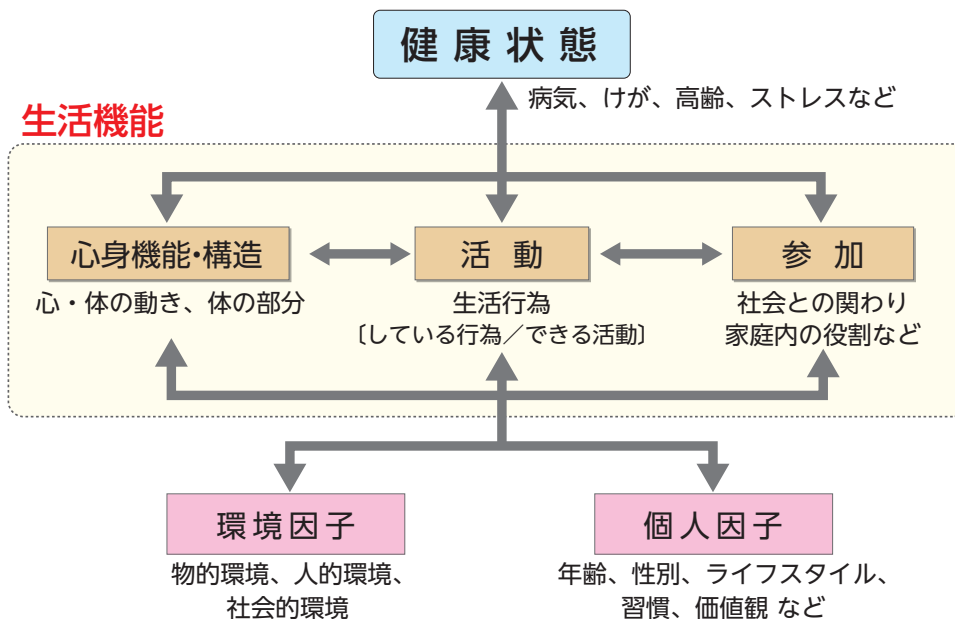
OJT

観察スキル、不安等軽減に向けた対応、要因分析、
ICF 構成要素、記録スキル

介護キャリア段位制度：レベル2②相当項目

- 認知症の方に BPSD(周辺症状)等のいつもと違う行動がみられた時に、丁寧な観察と情報収集により、その背景にある原因を追究し、必要な対応をおこなえているかを確認してください。
- BPSD(周辺症状)の発現を防ぐには、どのような配慮が必要なのかを探るべく、チェック項目②③では、利用者の方はどのようなことに不穏や不安になられたのか、**状況や様子の観察の視点、情報収集の視点**について評価します。
- チェック項目②、③は**なぜ**そのような利用者状態(不安・不快感等)につながったのかを、丁寧に探ることができていたことがわかるように、**観察視点、収集した情報の概要を示してください。**
- 「認知症だから…」と認知症を理由にしてしまつては、**背景にある原因を検討**することができているとはいえません。当該評価項目の評価としては不十分です。
- WHO(世界保健機関)の **ICF(国際生活機能分類)の構成要素を活用**することにより、それぞれの関係性も考慮しながら、利用者を取りまく環境の情報収集を行いましょう。
- ICF(国際生活機能分類)の構成要素は、相互に作用します。一つの構成要素が変われば、他の構成要素も変わってきます。生活機能モデルで、「生きることの全体像」を捉えることが重要となります。

ICFの構成要素



Ⅱ. 利用者視点での評価 1. 利用者・家族とのコミュニケーション

(1) 相談・苦情対応ができる

▶ 利用者・家族の相談や苦情に対し、誠意ある態度で対応し、適切な部署へつなぐことができているか。	
振り返り、深掘りしてみる	
① (自分で対応できない場合)相談・苦情の内容について、上司に報告し、対応を依頼することができたか。	▶ 相談・苦情を受けて、介護職員の対応はどうだったか？
	<input type="checkbox"/> 上司への報告と対応の依頼 () ・適切な部署につなぐことができていたか？ ・報告のタイミングは？
② 相談・苦情の内容及び関連情報を正確に把握・収集し、わかりやすく整理することができたか。	▶ 相談・苦情の内容、関連情報の収集・整理はできていたか？
	<input type="checkbox"/> 相談・苦情の概要 () <input type="checkbox"/> 関連情報の収集・整理 () ・職員の主観は排除できていたか？ ・記録は十分であったか？
③ 苦情の要因を特定し、解決策及び再発防止策を考えることができたか。	▶ 相談・苦情の要因分析と解決策/再発防止策を検討したか？
	<input type="checkbox"/> 要因分析 () ・問題の根本原因は？なぜ起きたのか、検討したか？ <input type="checkbox"/> 解決策/再発防止策 () ・再発防止の視点があったか？
④ 苦情に対する解決策及び再発防止策を利用者や家族に説明し、納得してもらえたか。	▶ 利用者・家族への説明はできていたか？
	<input type="checkbox"/> 利用者・家族への説明 <input type="checkbox"/> 利用者・家族の了承 ・利用者・家族の反応に配慮できていたか？
⑤ 相談・苦情に対する解決策について、チームメンバーと共有し、解決策が継続的に実践されるよう働きかけを行ったか。	▶ 解決策/再発防止策は、チームで実践しているか？
	<input type="checkbox"/> 解決策/再発防止策のチームメンバーとの共有 () <input type="checkbox"/> 解決策/再発防止策の継続的な実践 () ・行動が変わる仕組みになっているか？ ・役割分担して、フォロー体制を整えているか？

OJT 情報収集、要因分析、解決策・再発防止策検討と実践、チームケア

介護キャリア段位制度:レベル2②相当項目

- ▶ チェック項目①:利用者または家族からの相談・苦情対応ができているか、確認しましょう。
- ▶ チェック項目②～⑤:相談・苦情の要因を分析し、解決策や再発防止策を講じ、チームで共有し、継続実践していくスキルまでが求められます。

(2)利用者特性に応じたコミュニケーションができる

▶ 利用者の個性や疾患に応じたコミュニケーション技術を選択し、良好な信頼関係の形成ができているか。	
振り返り、深掘りしてみる	
▶ 家族とのコミュニケーション	
①	家族に利用者の日頃の様子などの情報を積極的に伝えることができたか。
	▶ 家族とのコミュニケーション <input type="checkbox"/> 利用者の日頃の様子の把握 () ・利用者がどう過ごしているか ・その人らしさ・変化・笑顔・関わり瞬間など <input type="checkbox"/> 家族とのコミュニケーション(双方向) () ・事実だけでなく、その人らしさ・感情のエピソード等が伝わるよう意識したか？ ・家族の反応に耳を傾けて、“もっと聞きたいこと”を引き出していたか？
▶ 利用者とのコミュニケーション(双方向)	
②	利用者が興味関心を持てるような話題を取り上げ、コミュニケーションをとったか。
	▶ 利用者とのコミュニケーション(双方向) <input type="checkbox"/> 利用者への興味・関心のある話題の提示 () ・話題は利用者に合っていたか？ ・利用者の反応はどうだったか？ <input type="checkbox"/> 利用者との会話のやりとり (双方向) () ・話すだけでなく、聞く姿勢はあったか？ ・双方向(キャッチボール)になっていたか？ ・対話に発展していたか？ ・利用者の表情・気持ち・意欲に変化はあったか？
▶ 意思表示が難しい方とのコミュニケーション:意向の汲み取りのスキル	
③	利用者の話に耳を貸し、意思表示を把握し、理解することができたか。
	▶ 意思表示が難しい方とのコミュニケーション <input type="checkbox"/> 意思表示が難しい方 () ・言語機能障害、認知機能低下、身体的制約、心理的要因、等 <input type="checkbox"/> 利用者の意向のくみ取り(利用者の意思尊重) () 利用者の仕草、表情、行動 などから ・発しない・発せられない意思を観察から察知したか？ ・曖昧な訴えをくみ取る・引き出す工夫をしていたか？ ・声かけ、態度、位置など、関わり方の工夫をしたか？

1. 入浴介助

2. 食事介助

3. 排泄介助

4. 移乗・移動
・体位変換

5. 状況の変化に
応じた対応

1. 利用者・家族との
コミュニケーション

3. 感染症対策
・衛生管理

4. 事故発生防止

▶ 認知症の利用者とのコミュニケーション：意向の汲み取りと介護内容伝達のスキル	
④	<p>認知症の利用者に対し、その特性に応じた声かけやジェスチャー、表情等により、利用者の意向を確認し、介護の内容を伝えることができたか。</p>
	<p>▶ 認知症の方とのコミュニケーション</p> <p><input type="checkbox"/> 認知症の方の状態 ()</p>
	<p><input type="checkbox"/> 利用者の意向の汲み取り (利用者の意思尊重) ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔や表情の変化 ・アイコンタクトや頷き、身体の動き ・好きな話題への反応 ・拒否的な動作(手を振る・目をそらす)の出現 など ⇒ 利用者の意向を汲み取ることができていたか。 <p><input type="checkbox"/> 介護内容の伝達 ()</p> <p>伝達の仕方はどうであったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスを感じない距離感 ・ゆっくりと落ち着いた口調、平易な言葉 ・不安にさせない表情、声のトーン ・五感の活用:視覚的サポート(指さし、実物をみせるなど)、ジェスチャー、身体的動作(例:座ってみせる、スプーンを持ってみせる) など ・利用者の表情・仕草・反応を見ながら、伝わっているかを確認 ・繰り返したえる ・時間をあけて再度声かけする など
▶ 視覚障害の利用者とのコミュニケーション：介護内容の伝達のスキル	
⑤	<p>視覚障害の利用者に対し、その特性に応じた声かけをし、利用者の意向を確認し、介護の内容を伝えることができたか。</p>
	<p>▶ 視覚障害の利用者とのコミュニケーション</p> <p><input type="checkbox"/> 視覚障害の方の状態 ()</p>
	<p><input type="checkbox"/> 利用者の意向把握 (利用者の意思尊重) ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声かけの仕方は？ ・意向把握の仕方は？ ・対話式での誘導、選択肢を提示する等 ・本人の意思を尊重する問いかけ、聞き取り(繰り返し、待つ等)、同意取得ができていたか。 ・安心感の配慮ができていたか？ ・利用者の反応を観察し、理解の程度を確認しているか <p><input type="checkbox"/> 介護内容の伝達 ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚情報の代替提示ができていたか？(音声による位置説明、クロックポジション、触覚誘導等複数手段を用いての伝達等)

		・環境説明・空間情報の伝え方：「こちら」などの抽象的な表現ではなく、方向、距離、物の名称で具体的に伝えていたか。
▶ 聴覚障害の利用者とのコミュニケーション：介護内容伝達のスキル		
⑥	聴覚障害・難聴の利用者に対し、その特性に応じた声かけやジェスチャー、表情等により、利用者の意向を確認し、介護の内容を伝えることができたか。	▶聴覚障害の利用者とのコミュニケーション
		<input type="checkbox"/> 聴覚障害の方の状態(像) ()
		<input type="checkbox"/> 利用者の意向把握(利用者の意思尊重) () ・声かけの仕方は？ ・意向把握の仕方は？ ・視線を合わせてから話しかけていたか？ ・表情を意識して接していたか？ ・ジェスチャーや身振りを用いて説明したか ・利用者が口元を確認できるよう配慮したか ・ゆっくり・はっきりとした口調で話したか ・利用者の反応を観察し、理解の程度を確認したか ・筆談や絵カード、タブレット等を活用したか ・補聴器等の使用状況を把握したか ・利用者個別のコミュニケーション方法を確認したか(手話、口話、指さしのどれが得意か) ・静かな環境を整え対応したか
		<input type="checkbox"/> 介護内容の伝達 () ・介護内容の伝達の仕方 ・視線を合わせる、背後から声をかけない など ・口元・顔全体がみえるように配慮したか？ ・非言語的な手段(ジェスチャー、写真、イラスト、絵カードの活用など)を用いたか？ ・長文ではなく簡潔で明確な表現を用いたか？ ・一方的な説明ではなく、確認、共感を含めたやり取りであったか。(うなずき、目線、表情、動作等)

OJT

利用者特性に応じたコミュニケーション・介護内容伝達スキル

介護キャリア段位制度：レベル2②相当項目

- ▶ チェック項目①：家族に対して、事務連絡や事実報告ではなく、利用者の日頃の様子について積極的に伝えることができていましたか。家族との良好な信頼関係形成につながる情報提供の工夫がありましたか。伝えていた利用者の日頃の様子と家族とのコミュニケーションの内容はどうでしたか。
- ▶ チェック項目②：どのような話題を取り上げコミュニケーションをとっていましたか。それは利用者が興味関心を持てるような話題でしたか。コミュニケーションは、一方的な伝達ではなく、**双方向のやり取り**です。

- チェック項目③: **コミュニケーションが取りにくい利用者**に対しては、介護行為の伝え方などの特性に合わせた工夫を行うことが大切です。利用者の話の内容、仕草や表情等から意思を読み取り、理解をして、受け止めていましたか。
- チェック項目④⑤⑥: 認知症の方や聴覚障害・難聴の方には、長々と説明をするより非言語コミュニケーションを用いたり、視覚障害の方には、上下・左右・距離など空間的な用語を取り入れる工夫が大切です。

II. 利用者視点での評価 3. 感染症対策・衛生管理

※ II. 2. 介護過程の展開（レベル3相当項目）は、本チェックシートの対象外としています。

(1) 感染症予防対策ができる

▶ 日常のケアの中で、感染症標準予防策(スタンダード・プリコーション)を実践できているか。	
振り返り、深掘りしてみる	
① 利用者の血液、体液、分泌物、排泄物(汗を除く)、障害のある皮膚、粘膜に接触する場合、手袋を着用するとともに、ケア終了後は、手袋を脱着し手洗いをしているか。	▶ 感染源になるもの(利用者の血液、体液、分泌物、排泄物(汗を除く)、障害のある皮膚、粘膜)に接触する場合の対応
	<input type="checkbox"/> 対応した場面 ()
	<input type="checkbox"/> 使用した防護具 ・手袋の着用 ・マスクの着用 ・() ・防護具着脱・交換のタイミングは？ ・着脱の手順は？ ・清潔／不潔の概念に基づいた判断ができていたか？
② オムツ、清拭、エプロン等感染の媒介となるものを、床に直接置いていないか。	▶ 感染源となりうる使用物の処理方法
	<input type="checkbox"/> 感染の媒介となるものの廃棄場所 ()
	<input type="checkbox"/> 廃棄処分時に用いたもの () <input type="checkbox"/> 感染の媒介になるもの扱い方 ・密封と廃棄処分の実施をしたか？ ・脱着後の手袋の密封処分はどうだったか？
③ 嘔吐物、排泄物、血液等の感染源になるものがある場所の消毒を確実に行ったか。	▶ 感染源となりうる場所飛散や付着した可能性がある場所の消毒方法
	<input type="checkbox"/> 感染源になるもの（消毒すべき場所やもの） ()
	<input type="checkbox"/> 感染源になるものの消毒方法 () ・消毒薬の種類・濃度・放置時間の知識に基づき、適切に使用できていたか？ ・感染リスクのある状況を察知し、速やかに処置対応ができていたか？

1. 入浴介助

2. 食事介助

3. 排泄介助

4. 移乗・移動
・体位変換

5. 状況の変化に
応じた対応

1. 利用者・家族との
コミュニケーション

3. 感染症対策
・衛生管理

4. 事故発生防止

④	利用者に、どのような感染症の既往があるか確認できているか。	<input type="checkbox"/>	利用者の感染症既往の確認 確認の方法 ()
---	-------------------------------	--------------------------	---------------------------

OJT

感染症標準予防策(スタンダードプリコーション)

介護キャリア段位制度：レベル2②・レベル3相当項目

- **一処置一手指衛生の原則**に立ち返りましょう。この項目は、感染の有無に関わらず行う標準予防策(スタンダードプリコーション)について確認しましょう。
- 感染の媒介となるものを床に置いている場合(新聞紙の上やビニールシートの上であっても同様)は、衛生管理が適切にできているとはいえません。感染の媒介となるものは床に置かずに処理していること、すぐに密封していること等、適切な感染予防対策ができていることを確認しましょう。

(2) 感染症発生時に対応できる

▶ 感染症が疑われる利用者や感染症に罹患した利用者への、感染症拡大防止の対応ができているか。		
振り返り、深掘りしてみる		
①	<p>感染症を疑われる利用者や罹患した利用者に対応する場合に、マスクの着用、ケア前後の手洗い・消毒等感染拡大防止のための対応をとったか。</p>	<p>▶ 利用者の状態</p> <p><input type="checkbox"/> 疑われる感染症名 / 罹患した感染症名 など ()</p> <p>▶ 感染症拡大防止の対応</p> <p><input type="checkbox"/> 事例に応じた、拡大防止策の実施 (病原体の感染経路の遮断、病原体の除去)</p> <p>・空気感染：結核、麻疹、水痘、带状疱疹 など ・飛沫感染：新型コロナウイルス、インフルエンザ、風疹、百日咳など ・接触感染：MRSA、ノロウイルス など</p> <p><input type="checkbox"/> 使用した防護具(病原体の感染経路の遮断) ・マスクの着用 ・手袋の使用 ・() ・着用のタイミング・順序、適切な交換頻度まで理解し実践できていたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 手指衛生の実施 (病原体の感染経路の遮断、病原体の除去) ・ケア前の手洗い ・ケア後の手洗い</p> <p><input type="checkbox"/> 感染源になるもの・場所の消毒方法 (病原体の除去) ()</p> <p><input type="checkbox"/> 使用した防護具(手袋等)の廃棄方法 (病原体の感染経路の遮断) ()</p> <p>・他利用者への接触機会を減らす対応はとっていたか ・速やかに医療職等の連携をとっていたか</p>
	②	<p>▶ 記録</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者の状態の概要 () ・時系列や症状の変化、バイタルなどを記録し、経過が追えるように記録したか</p>

		□	感染症発生状況の概要 () ・アセスメント、チーム連携に資する記録になっていたか
--	--	---	---

OJT

病原体の感染経路の遮断と除去、記録スキル

介護キャリア段位制度：レベル2②・レベル3相当項目

- この項目では感染症を疑われる利用者や感染症に罹患した利用者への対応を確認しましょう。
- **感染予防の原則**は、「病原体の感染経路の遮断」、「病原体の除去」「生体の防御能力(免疫など)の補強」があります。
- チェック項目①:どのような感染症(疑い)について、どのような拡大防止のための対応を行っていましたか。ケア前後の手洗いについてはどうでしたか。
- チェック項目②:利用者の状態をはじめ、感染症発生状況を正確に記録することは、その後の対応策を考えるうえでも重要です。

Ⅱ. 利用者視点での評価 4. 事故発生防止

(1) ヒヤリハットの視点を持っている

<p>▶ ヒヤリハット(「事故には至らなかったものの、事故につながりかねなかった」であろう気づき)の視点をもつことができているか。</p>	
<p>振り返り、深掘りしてみる</p>	
<p>① 「事故には至らなかったがヒヤッとしたこと」「ハッとした気づき」を意識してとり上げ、記録に残すことができたか。</p>	<p>▶ ヒヤリハットの概要 (いつ、どこで、誰が、どのように、なぜ、どうしたか)</p>
	<p><input type="checkbox"/> 発生場所、場面 ()</p>
	<p><input type="checkbox"/> 利用者の状態 () ・属性、ADL、認知症状の有無 など</p>
	<p><input type="checkbox"/> 想定される事故の種類 () ・転倒・転落・滑落、誤嚥・誤飲 など</p>
	<p><input type="checkbox"/> 福祉用具・機器等の使用状況 () ・センサーマットの使用 など</p>
	<p><input type="checkbox"/> 想定されるリスク (どのようなことが起きる可能性があったか?) ()</p>
	<p><input type="checkbox"/> 利用者の状態 (発生の結果の状況) () ・外傷の有無 など</p>
	<p><input type="checkbox"/> 記録名 () ・客観的事実が記録されていたか? ・小さな変化や違和感を察知できたか? ・なぜそれを危険と判断したのか? 根拠を伴っているか?</p>
<p>② ヒヤリハットの対応策(予防策)を講じることができたか。</p>	<p>▶ ヒヤリハットの対応策・予防策</p>
	<p>▶ 要因分析</p>
	<p><input type="checkbox"/> サービス提供側の要因 ()</p>
	<p><input type="checkbox"/> 利用者・家族側の要因 ()</p>
	<p><input type="checkbox"/> 環境面の要因 ()</p>
<p>▶ 対応策・予防策</p>	
<p><input type="checkbox"/> ヒヤリハットの対応策・予防策の概要 () ・未然防止につなげる視点を持っていたか?</p>	

- 1. 入浴介助
- 2. 食事介助
- 3. 排泄介助
- 4. 移乗・移動
・体位変換
- 5. 状況の変化に
応じた対応
- 1. 利用者・家族との
コミュニケーション
- 3. 感染症対策
・衛生管理
- 4. 事故発生防止

③	分析した情報について、事業所・施設内の会議で報告する等ケアチームで情報共有し、対応策を継続的に実践することができたか。	▶ 対応策(予防策)のチーム共有、継続実践	
		<input type="checkbox"/>	チームでの共有事項 ()
		<input type="checkbox"/>	継続実践の方法・状況 () ・対応策をチームに広げる動きはあったか？

OJT

要因分析、対応策の提示の実践、チームケア

介護キャリア段位制度：レベル2②・レベル3相当項目

- ・ この項目では、「事故には至らなかったものの、事故につながりかねなかった」であろう気づきの視点をもつことができているかを確認しましょう。
- ・ ヒヤリハットの視点として、その出来事や行為がどのような事故につながる可能性があったのか、整理することができるか、記録に基づき、他の職員にも注意喚起することができるかの対応が求められます。
- ▶ 該当案件について、どのように**要因を分析し、対応策(予防策)を講じて**いますか。また、対応策(予防策)を**チームで共有し、継続実践**することができますか。

(2)事故発生時の対応ができる

<p>▶ 施設等の内部ルールに従い事故発生時に報告すべき者に対して、事故発生時の状況について明確に伝えることができているか。</p>	
<p>振り返り、深掘りしてみる</p>	
<p>①</p>	<p>▶ 事故の概要(いつ、どこで、誰が、どのように、なぜ、どうしたか)</p>
	<p><input type="checkbox"/> 発生の状況 ・発生場所、場面 () ・行為主体 (職員/利用者)</p>
	<p><input type="checkbox"/> 利用者の状態 () ・属性、ADL、認知症状の有無 など</p>
	<p><input type="checkbox"/> 利用者の状態: 普段の行動特性 ()</p>
	<p><input type="checkbox"/> 事故の種類 ・転倒・転落・滑落、誤嚥・誤飲 など</p>
	<p><input type="checkbox"/> 事故の概要 ()</p>
	<p><input type="checkbox"/> 発生時の対応 ・怪我等の有無確認 ・介護職員による対応 ・報告 ・看護師による処置</p>
	<p><input type="checkbox"/> 負傷等の内容 () ・外傷の有無 など</p>
<p>・「いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どうした」を整理して報告できていたか。 ・報告順、時間、使用様式(事故報告書等)を正しく理解して行動できていたか。</p>	
<p>▶ 事故の原因を考察し、再発予防策を講じることができているか。</p>	
<p>②</p>	<p>▶ 事故の原因考察</p>
	<p><input type="checkbox"/> 原因の考察 ()</p>
	<p><input type="checkbox"/> 原因器物 ()</p>
<p>▶ 再発予防策</p>	
<p><input type="checkbox"/> 再発予防策 () ・環境改善・声かけの工夫・動線変更など、具体的な対応策を実施したか。</p>	

▶ 家族に連絡し、利用者・家族が理解できるように説明を行うことができているか。	
③ 家族に連絡し、発生原因、再発予防策を利用者・家族が理解できるように説明できたか。	▶ 利用者・家族への説明（インフォームド・コンセント）
	<input type="checkbox"/> 家族への連絡（ ） 利用者・家族への説明の仕方 ・理解できる言葉で説明したか ・状況の丁寧な説明であったか ・落ち着いた態度で安心感を与えたか ・利用者・家族の理解(同意)は得られたか
▶ 施設等の内外の関係者と情報を共有し、再発防止策を継続的に実践することができるか。	
④ 事故の発生から再発予防策までを事業所・施設内外の関係者と共有し、再発防止策を継続的に実践することができたか。	▶ 対応策(予防策)のチーム共有、継続実践
	<input type="checkbox"/> 事業所・施設内外の関係者との再発予防策の共有の仕方（ ） ・口頭・書面(記録・会議資料)を活用し、チーム対応につなげたか <input type="checkbox"/> 再発防止策の継続実践の方法・状況（ ） ・モニタリング・再点検・職員間での再確認が行われたか

OJT

要因分析、対応策の提示と実践、チームケア

介護キャリア段位制度：レベル2②・レベル3相当項目

- ▶ 事故は再び起こしてはならないものであり、事故発生時の状況の把握や分析のために、これらの点について確認し情報として共有できているか、確認しましょう。
- ▶ 利用者に実害があった場合のみならず、利用者に実害が及ぶ可能性があった場合も、「事故」と捉え、再発防止に向けて取り組むことができているか、一連の対応を確認しましょう。
- ▶ 事故の範囲は広範囲に及ぶことから、当該項目においては、介護者の行為によって利用者に危険が及ぶ可能性のある事故発生を想定しています。
- ▶ また、事故の大小、利用者の怪我の有無や治療の有無を問うのではなく、対応の仕方(実践的スキル)を確認しましょう。
- ▶ 事業所・施設のルールに沿って報告すべき者(誰に報告したのか)に明瞭に伝えることができているか。
- ▶ どのように**要因分析**を行い、**再発予防策**を講じていますか。
- ▶ 当該事件事例と再発予防策を**関係者**とどのように**共有**していますか。そして再発予防策をどのように**継続的に実践**していますか。事故発生防止策・改善策を展開するスキルが求められます。

(3) 事故報告書を作成できる

▶ 事故の発生状況を的確に把握し、その対応について明確に報告書に記載することができるか。						
▶ 保険者に対する報告方法とその様式について、理解し記載することができるか。						
振り返り、深掘りしてみる						
①	事故報告書に、5W1H を明確にした発生状況とその対応を記載できたか。					
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2" style="background-color: #d9d9d9;">▶ 事故報告書の記載</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"><input type="checkbox"/></td> <td> 5W1H を押さえた発生状況の記録 ・事故の実態を明らかにしているか ・原因が究明できる記載となっているか ・詳細については時間を追って記述しているか ・客観的記載となっているか </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"><input type="checkbox"/></td> <td> 再発防止策の提示と記録 ・改善策や事故後の対応方法が明示されているか </td> </tr> </table>	▶ 事故報告書の記載		<input type="checkbox"/>	5W1H を押さえた発生状況の記録 ・事故の実態を明らかにしているか ・原因が究明できる記載となっているか ・詳細については時間を追って記述しているか ・客観的記載となっているか	<input type="checkbox"/>
▶ 事故報告書の記載						
<input type="checkbox"/>	5W1H を押さえた発生状況の記録 ・事故の実態を明らかにしているか ・原因が究明できる記載となっているか ・詳細については時間を追って記述しているか ・客観的記載となっているか					
<input type="checkbox"/>	再発防止策の提示と記録 ・改善策や事故後の対応方法が明示されているか					
②	保険者に対する報告について、その定める方法・様式に沿って記載することができたか。 <input type="checkbox"/> 保険者様式を踏まえた、報告書の記載					

OJT

記録スキル

介護キャリア段位制度：レベル3相当項目

- 介護保険制度上の「保険者」とは、市町村と特別区（広域連合を設置している場合は広域連合）のことです。
- 記録は、事故の実態を明らかにしていますか。原因が究明できる記載となっていますか。詳細については時間を追って記述していますか。客観的記載となっていますか。
- 保険者の定める方法・様式に沿って記載できていましたか。

※介護プロフェッショナルキャリア段位制度の全ての評価基準(148項目)については、
介護キャリア段位制度ホームページ(<https://careprofessional.org/careproweb/jsp/>)、
「キャリア段位制度アセッサー講習テキスト」、「介護キャリア段位制度介護スキルチェック項目 OJT ポケットガイド」等にて、確認
いただけます。あわせて、参照ください。

介護プロフェッショナルキャリア段位制度の評価項目を用いた
OJT ケアの根拠をたどる 介護技術チェックシート

内容照会先 一般社団法人シルバーサービス振興会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-14-2 イトーピア岩本町 ANNEX ビル5階

TEL 03-3862-8061 FAX 03-3862-8065